平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3092000060		
法人名	医療法人　裕紫会		
事業所名	あがら花まるグループホームⅡ　【ユニット名：　】ききょうユニット		
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井21118-1		
自己評価作成日	平成26年2月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3092000060-00&PrefCd=30&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が、自宅で送ってきた生活を、グループホームに入居しても今までと同じように過ごせるように努めている。
また、地域との繋がりを大切にし、施設と地域との交流を積極的に行い、近隣の小学校や幼稚園との交流も随時行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者が居心地良く、楽しみを持って暮らせるよう、職員が真摯に利用者に向き合う姿勢がみられる。「花よりだんご、笑うあがらに福来たる」の理念を意識し、美味しく食べて笑顔で暮らせる生活が継続できるよう、どのようなケアが望ましいかを常に考え、試行錯誤しながら取り組んでいる。ホームのある複合施設は住宅地の中に在り、子供たちや、地域の人たちが気軽に訪問しやすく、入居者や、職員との関係ができている。施設全体が「あがら花まる」として自治会に加盟しており、地域の一員として地区の作業や、行事にも積極的に参加している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の“あなたがあなたらしくある暮らし”の下、事業所理念の「花よりだんご、笑うあがらに福来たる」をもっとうに、よく食べ、よく笑い、いつまでも健康で居られるよう日々ケアに努めている。	ホームの理念を皆で共有し、一人ひとりの利用者が、いつまでも美味しく食べて笑顔で暮らせることを大切に考えて、日々のケアを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の児童や幼稚園の園児との交流が多く、最近では学校が休みの時に子供たちが遊びに来る機会もある。反対に、運動会や文化祭等に、入居者と一緒に出かける事も積極的に行っている。	地区の文化祭に、毎年利用者の作品を出品している。当日は会場で知人や近隣の人に会って親交を深めている。職員は文化祭開催の準備段階から手伝っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校に毎年出向き、車椅子体験や認知症サポーター養成講座のメイトをし、高齢者の気持ちや認知症の理解を地域に向け広めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、随時サービス内容や取り組みの状況について報告を行っている。また、行事事への協力の依頼や協力者の紹介をして頂いたりしている。	複合施設全体で開催している。通常の運営推進会議の他に、拡大版運営推進会議として、市の協力で地域向けの学習の場を設け、地域の人達の意見を聞かせてもらう場を二年前から設けている。	テーマや進行を工夫し、合同の会議の限られた時間の中で、より多くのことについて話し合いができることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、市役所へ足を運び、報告連絡相談を行い、市との協力関係に努めている。	御坊市の地域密着型サービスの拠点として、ホームの開設以前より複合施設「あがら花まる」との協力関係が築けており、認知症サポーターの養成も協力しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員随時外部研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。 また、日頃のケアの中で、身体拘束にあたるような事がないか、職員間で注意し合っている。	身体拘束を行わないケアへの意識は強く、日頃から拘束にあたる言葉を使わないよう注意し合っている。センサーマットの使用に際しても、本人を心理的に拘束する恐れがあることを認識し、家族にも説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等を通じ、啓発を行っている。また、日々のケアの中でも虐待に当たるような事が無いか、スタッフ間で注意し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、職員全体に周知できるようミーティング等を通じて話し合っている。現在施設で成年後見制度を利用されている方が居られる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約内容及び重要事項について、家族様に説明を行い、不明な点や疑問点はないか尋ね、理解・納得の上サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族との信頼関係の構築に努め、何でも話せる関係作りに努めている。遠方のご家族とは、メールでのやり取りで意見交換を行っている。	普段の会話の中で、利用者や家族と何でも話し合える関係を作り、要望等を聞き取ろうとしている。家族の訪問が頻繁にあり、日頃の様子を伝え、話しやすい環境になるよう努めている。	運営推進会議の中で出席している家族からの意見が聞けるよう工夫し、運営に反映できることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で、職員の要望の聞き取りを行い、可能な限り運営に反映させている。日頃のコミュニケーションの場でも、意見や提案の聞き取りをするようにしている。	職員からの意見や提案は現場のリーダーが、管理者に伝え、どのようにすれば実現できるかを、会議などで話しあっている。普段の行動の中でも、気づいたことを話し合える関係が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季、冬季賞与は、各職員が自己評価をし、管理者が個々の考課表を作成し、勤務態度や実績、努力を賞与額に反映させている。また、各職員に適した研修に参加出来るよう配慮し、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせ、研修への参加を呼び掛けている。また、会社から研修の受講を推薦し、能力に応じ研修へ参加してもらい、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や実習生の受け入れ等を通じ、他事業所の職員と交流する機会作り、その中で、自施設と他事業所との違いを話し合い、自施設の質向上に向けた取り組みが出来るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、本人がどういった事に不安を抱えて居られるか、不自由さを感じて居られるかをアセスメントし、入居後も安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面接において、ご家族より希望や要望等伺い、入居後も随時ご家族に連絡をし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービス事業所又は、ご家族様からの情報をもとに、必要な支援を見極め、必要時は他のサービスも利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事や出来ない事、やりたい事ややりたくない事を把握し、入居者9人が共同して生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の現状における状態の報告を行う中で、本人とご家族との関係が途切れないよう支援している。行事事には極力一緒に過ごしてもらえる様働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の事前面接において、ご家族に本人の今までの生活歴を伺い、馴染みの物や使い慣れた物、馴染みの場所や人を伺い、入居後も関係が途切れないよう出来る限り努めている。	訪問しやすい雰囲気であり、友人や家族の訪問が多い。利用者との会話の中で、行きなれた店などが分かれば、出かけて親しかった人と会える機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設での生活において、入居者同士が協力し合いながら生活を送れるよう支援に努めている。 また、気の合う方や合わない方との関係性にも注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了するにあたり、ご本人、ご家族様に随時相談や必要な支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、意向の把握に努め、意向を伺った際には、記録に残し、職員間で情報の共有が図れるようにしている。	本人に対しては表情を良く見て思いを受け取れるように接し、家族や周辺の人からも情報を集め、本人の好みや希望に沿った生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人及びご家族から情報収集を行い、また、ご家族にも協力して頂きセンター方式にて今までの生活歴の情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し状態の把握に努め、職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、一人一人の現状についてのカンファレンスを行い、現状のプランに問題がないか話し合っている。また、場合によってはプランの変更を行っている。	本人や家族の要望を聞き、必要な情報を基に職員間で話し合い、個々の利用者に沿った計画が作成されている。計画の見直しも丁寧に行われており、常に状況に合った計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝夕に申し送りを行い、一人一人の状態の報告を行っている。また、気づきにおいては記録に残し、職員間で情報の共有を図り、介護計画の反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズを聞き取り、買い物支援や行きたい場所へ出かけるなど、その時の状況に応じ対応している。場合によっては、ご家族様にも協力のお願いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や小学校と協力しながら、互いの行事などには積極的に参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、今までのかかりつけ医に診て頂くようご家族にはお願いし、定期受診の通院もご家族にお願いしたり、又は主治医の往診にて対応している。場合によっては職員が受診に同行し状態の報告を行っている。	入居前のかかりつけ医による受診を継続している。定期的な受診は家族が行い、急な受診の時は、職員が同行することもある。受診時には容態の記録を家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、訪問看護の看護師と、入居者様の日頃の様子や気付きについて情報の共有を図り、その都度相談し、適切に医療と介護の連携が図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医師との情報交換や地域医療連携室と連絡を取り合い、かかりつけ医とも退院に向けての相談をする中で、退院後も施設で安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、早い段階からご家族とは話し合っている。終末期を迎えるに当たり、どういった形で最期を迎えさせてあげたいか、ご家族の意向の聞き取りを十分に行い、施設で出来る限りの方法で、関係者と連携し最期を迎えられるよう努めている。	終末期の迎え方は、早期の段階で話し合い、家族や、医師・訪問看護・事業所と連携して医師の指示書や家族の意向を尊重し、希望に沿った支援が出来るか、職員全体で話し合っている。変化があれば、その都度話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加したり、緊急時対応マニュアルやフロー図を配備はしているが、実際に緊急時や急変時に、迅速且つ的確な対応が取れるか不安を感じている職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について、地域住民の方々にご理解を頂き、緊急避難時の協力体制を築いている。また、年に2回の防災訓練を行ったり、運営推進会議を通じ、災害対策についての話し合いの場も設けている。	火災訓練は、消防署の指導のもと、複合施設全体で行っている。訓練を重ね、様々な場面を想定し、より安全な避難方法について検討している。食糧の備蓄は3日分用意している。	今後、よりいっそう地域の人との協力関係を強めていける取り組みを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を知り尊重し、その人に合った言葉かけや対応を取るよう心がけている。	利用者一人ひとりの歩んできた人生を知って個人を尊重している。失敗する場面があっても、羞恥心や誇りを傷つけないよう、さりげなくサポートできるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定が出来るよう選択肢を並べたり、自己決定が行えるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の決まりはあるが、出来る限り一人ひとりの日課や習慣に対し、その人らしい暮らしが送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の気分にあった洋服が選べる支援や、起床時、入浴後のスキンケアを行っている。また、お誕生日には、その人らしい物（洋服、化粧品、置物等）をプレゼントするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の入居者との会話の中でも、食への楽しみが持てるような話題作りをしたり、調理も出来る範囲で手伝って頂き、配膳下膳食器洗いも職員と一緒に行っている。	朝食のメニューは利用者の好みでご飯食とパン食の選択ができる。利用者が食事の準備や片付けを一緒に行なえるよう配慮し、皆で食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜とバランスよく栄養が摂れるよう献立を職員が考えている。形態も、個々の状態に応じて変えている。水分は多種多様な飲み物を常時用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアの声かけ及び見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄が行えるよう、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導、もしくは介助を行っている。	おむつを使用している場合でも、できるだけトイレで排泄できるよう、排せつパターンに合わせて、個々に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトや牛乳などの乳製品や野菜ジュース、食物繊維の多い物を取って頂くようにしている。また、トイレでは腹部マッサージを行い、出来る限り自然排便で出るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聞きながら、タイミングを見て入浴出来るよう配慮している。また、入浴中も談笑しながら楽しんで入浴出来るよう心がけている。	時間や回数も一人ひとりの希望に合うよう支援している。また入浴を嫌がる人には、なぜかと言う理由を考えて、利用者の気持に沿った支援をするようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具や道具を入居時に持って来て頂くようお願いしている。また、個々にお昼寝の支援を取り入れたり、就寝時間も個々に応じた時間に休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人薬のチェックシートにて内服の管理を行いる。薬の効能については、いつでも確認出来るようにしている。服薬の介助においては、誤薬しないようマニュアルを作成し、個々に応じた服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の一部に、役割を取り入れるよう支援している。介護度の重度化に連れて、皆で楽しく過ごす時間は減っているが、個々に楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で一緒に外出する機会はないが、小グループで、お花見や地域の行事や祭事、水族館や紅葉狩り、初詣等、随時外出支援を取り入れている。	地域の祭りや文化祭に参加したり、花見や紅葉狩りなどの季節に応じた外出支援をしている。個人の希望に合わせて近くの商店やスーパーへの買い物に出かけることもある。	利用者の楽しみが増えるよう、様々な外出の機会をより多く持てるような取り組みを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前にご家族様にも相談した上で、入居者様にお金（小遣い程度）を所持して頂いている。買い物に出かけた際は、欲しい物、必要な物の購入を、自分で支払いが出来るよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は、その時の状況に応じ、掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放的で、窓からは陽の光が心地よく入っている。室内の温度や湿度にも気を配り心地よく過ごせるよう配慮している。玄関には近所の方が、定期的に花を活けて下さり、フロア内には季節の物を飾り付け、随所に季節を感じられる工夫をしている。	中央に共有空間が有り、各テーブルに季節の花があしらわれ、角に小さなソファーを配置して心和む工夫がされている。皆で製作し文化祭に出品した一人ひとりの似顔絵の貼り絵を壁に飾り、和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の随所にソファや椅子を配置し、入居者同士や職員も交えいつでもくつろいだり、談笑したり、休息できるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで過ごしてきた生活空間に近づけられるよう、使い慣れた家具や道具、寝具等を用意してもらっている。馴染みの物が居室にあり、本人が安心できるような環境作りに努めている。	家族の協力も得て、利用者が落ち着ける好みの部屋となっている。愛読書が並べられたり、使い慣れた家具に囲まれたり、入居前の生活を想い起こされる居心地の良い工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の入居者の出来る事、分かる事を把握し、出来る事が続けられるよう自立支援に取り組んでいる。		